

「学校を信頼して欲しい！」と云われてもねえ～

次のような一文（抜粋）が、ある学生から届いた。

【 私のいとは障がい児です。

朝早くから学校のバスに乗り、1時間近くかけて養護学校に通っています。

そのバスの中で、いとは友達とよくおしゃべりをしているようなのです。

私は、友達に会ったらうれしくて普通におしゃべりするのはあたり前だと思うのですが、その学校の先生は、いこのお母さんに「バスの中でうるさいので指導してください」と言ってきたのです。

おばさんも私と同じ考えだったようで先生に話したのですが、先生は「指導して下さい」の一点張りだということです。

しかも「あの子供たちは動物なので…」と言ったそうです。

どうして、こういう考えの人たちを先生としておくのが、私には意味がわかりません。

これこそ、本当の心のバリアフリーがなっていない例ですよ。

一人一人が自覚するためには、私たちが教えていくべきだと感じました。】

学生には、次のように返信した。

【 本当にこんな先生がいることに腹が立ちますよね。

プロとしての専門的知識・技術をもっているかどうか以前の問題ですよ。

やはり、こうしたプロとしての人間性は、自らが考え続け、自らを検証する心の練習しかないと思っています。

こうした似非プロが多いので、授業で専門的知識以上に、まずプロとしての人間性に纏わる話を、将来プロになるみなさんに語り続けている訳です。

プロとしての人間性を育むように、これからもプロに相応しい心の練習に日頃から励んでくださいね。】

この話を教育関係者にすると、恐らく「あり得ない、特別な事例」と云うだろうと思う。だが、こうした教師は日頃の言動からして、周りの教師は気づいているはず。

こうした言動の教師を放置してる教育現場から「教師（学校）をもっと信頼して欲しい！」と、いくら云われてもねえ～。

自ら所属する集団の弛まぬ検証し合う勇気なくして、級友のいじめを見て見ぬ振りする「我、関せず組」の生徒たちを、指導できるはずないですよ。